



代表幸田さん（前列中央）と会員のみなさん

喜多方市家庭教育支援チーム “もも”

代表 幸田 久美子 さんに聞く

平成 22 年 4 月 1 日から活動開始 活動人数 9 人（平成 27 年 8 月 1 日現在）

家庭教育講座や、子育て何でも相談、保護者の交流の場を提供する「ももクラブ」を開催している。

活動を通じて、子育てに対する不安や悩みを解消し、保護者だけでなく地域全体で子育てをする環境づくりに努めている。

現在の活動について

活動の 3 つの柱は、「家庭教育講座」「子育て何でも相談」「ももクラブ」の開催です。

一つ目の「家庭教育講座」は、子育て中の保護者の皆さんを対象にした託児つき（無料）の学習会和、親子を対象にした学習会を、合わせて年 4 回無料で開催しています。

二つ目の「子育て何でも相談」は常時行っており、年 2 回は託児つきの相談も行っています。電話で相談いただくことも可能です。相談というよりも話を「聴く」といった感じです。悩みや不安を取り除き、元気を取り戻すお手伝いできればと思っています。

三つ目の「ももクラブ」は、保護者の交流の場を提供していて、年に 3 回程度「ワイワイガヤガヤ楽しいことをしましょう！」という企画です。今年度は 7 月に「かえっこバザー」は終了しましたが、10 月には「秋のお散歩」、1 月には「おしゃべり手作り祭り」を計画しています。皆さんからの、「これをやりた〜い」の声を募集しています。



ミニ運動会

活動を始めたきっかけ

平成 20 年度に、「喜多方市家庭教育支援総合推進協議会」が結成され、文部科学省からの補助事業で、親が参加する多様な機会を活用し、子育てに関する情報や学習機会を提供するための事業、また、家庭や企業を訪問する事業が行われました。私は協議会から「喜多方市家庭教育支援員」として委嘱を受け、事業に携わることになりました。

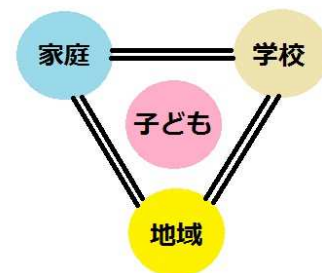
平成 20 年度は、地域における子育て支援の充実化を図る事業、平成 21 年度はこちらから心配な保護者のもとに出かけて行って支援を図る事業を行い、周りからの認知度や期待度が高まり、「さあ、これからだ！」と思っていた矢先、事業が打ち切りになってしまいました。

委嘱された 10 数人の家庭教育支援員の内、3 人が『保護者の皆さん、文部科学省の事業が終わったので活動を終えます。さようなら。』というのは、保護者置き去りじゃない？」「今までの 2 年間の活動はなんだったの？」「予算がつかないなら、細々でも、お金がないならの支援活動をやろうよ」と、「喜多方市家庭教育支援チーム “もも”」を立ち上げました。

今は、会員が納める年会費 3,000 円と、活動目的に賛同してくださる賛助会員が納める年会費 500 円で運営しています。会員の活動費は全く支給されず、それより年会費まで納めてのボランティア活動をする会員には、私は頭が下がります。

大切にしていること

敷居の低い相談員であり、色々な所にコネクションを持つ、“地域のおばちゃん”というのが活動カラーです。色んな行政の相談窓口がありますが、そこに行くと大げさになってしまうと考える保護者も多いのではないのでしょうか。行政とのつながりもある私たちがまずは話を聞いて、必要とあれば行政の力を借りるというステップもあると思います。家庭があり、学校・幼稚園があり、地域があり、その3つがスクラムを組んだ三角（図）の中で子どもを育てようというイメージを大切にしています。



図

また、会員はお互いに尊重し合い、楽しく仲良く元気に活動する事を心掛けています。月1回の定例会では、情報交換、企画等の話し合いを丁寧に行っています。ひと時に目立つのではなく、“スローに地道に自然体で”をモットーに、地域の方達の頼りになる身近な存在である事を目標に、継続的な活動を目指しています。「私はここにポスターとチラシを持っていくことはやるよ。」「私は相談相手になるのは苦手だけど、チラシは作るよ。」など、できることをやる、無理をしないということがいい結果に繋がっていると思います。

震災後の変化

私たちが会を立ち上げ、活動を始めた平成22年度に東日本大震災がありました。私たちにできることをやろうと、被災された保護者の交流の場を提供する計画をたてました。しかし、呼びかけをするにも、被災された方がどこにどれくらいいるか分からないため、市の学校教育課にお願いして、お手紙とお楽しみ交流会の案内書、そして連絡先を書いていただくためのハガキを学校から保護者に渡していただきました。ハガキが返ってきたのは20人くらいで、そこから毎月のお茶飲み交流会が始まりました。「歯医者さんはどこ?」「美容室はどこ?」などの他愛ない話をしながらのお茶のみ会も、時間が経つ内にだんだん参加者が少なくなってきました。もう私たちの役目は終了かなと、平成25年度の事業計画から外そうと考えていたところ、参加者の2人から「参加する人が少なくなっても交流会は続けてほしい。」という声が上がりました。それを機に、お茶飲み交流会の事業名は「ももクラブ」となり、対象者を「被災された保護者」から「保護者なら誰でも」に、また、毎月開催から年3回程度開催にと、形を変えて年間活動の一つになりました。今年度からは、お茶を飲むだけではなく、子どもをみながら何かを作ったり、外に出かけたりといった企画も取り入れました。

今後の展望

平成21年度の文部科学省の補助事業に、孤立しがちな保護者のところを訪問する事業がありました。独自の活動を始めて今年で6年目を迎え、私たちはやっと訪問事業にも手を伸ばせるようになりました。学習会開催の機会に出掛ける事が困難な方、周りとの交流機会が少ない方のところを訪問して、私たちの存在を知ってもらい、子育てや家庭教育をサポートする事業の準備を進めています。

限られた予算の中で、また、会員の負担を考えると、一気に喜多方市全域を対象にする事はできないので、まず1つの地区の幼稚園、小学校、公民館を訪問して、活動の理解をいただくところから始めていきたいと考えています。今年度は、会員が1人一回、計画に基づいた地域を訪問して、郵便受けに手作りパンフレットを入れたり、家にいらっしゃるときには、話をして、事業の第一歩を踏み出したいと

思っています。

事業名は、長く堅苦しいものではなく、分かりやすく親しみやすいように、「ももビジット」としました。これもまた、身近に感じてもらいたいという思いからです。

初めての試みなので、前進したと思ったらまた戻ってしまったりすることもあるでしょうが、ゆっくりゆっくり活動を積み重ねて、5年後の2020年くらいに少しでも手応えがあったらいいなと考えています。

子育てしやすい環境づくりについて

私が子育てをしている頃は、育成会主催の地区対抗球技大会が年2回あり、子ども達は同じ地域のおじさん達の指導の下に練習に励みました。それがきっかけで保護者同士の交流もあり、家では見えない外での子どもの様子も知る事ができ、地域の皆さんにも子どもを育てていただいているなあという思いがありました。

時代は変わり、今ではメール、ツイッター、ラインなどができる携帯情報端末（スマホ等）が、人と人を結ぶ道具として加わり、声を出さなくても文字だけで交流ができる環境になりました。子育ての悩みがあっても、画面にタッチして答えを求めれば返ってきます。手軽で便利だと思います。

一方、一人で子どもを育てる保護者が増えたり、収入が不安定な保護者が増えたりと社会の状況が様変わりして、心に余裕が持てない保護者が増え、子育ての家庭環境の悪化を、私たちはとても心配しています。そのような状況に手を差し伸べる意味で、保護者の周りにいる人（学校や幼稚園、地域の皆さん）が、保護者を気にかける事、三角（図）のように、子育てはみんなでという意識（当事者意識）をもつ事が、保護者の大きな支援になると思います。

たとえば、回覧板を次のお宅に回すときは、郵便受けに入れるのではなくて、相手の顔をみて「暑くなりましたね。」等の言葉と共に渡す事ができたら素敵ですよ。さらに発展して「私たちはいつも子育てを応援していますよ。」のハートを保護者に伝えられるみなさんが増えたらいいと思っています。

印象的だった出来事

相談日に、「話をすることがこんなに気持ちがいいものだと思いますでした」と言って元気に帰った保護者がいました。その保護者にとってはきっと、ネットで手軽に答えを得るのでは味えない「リフレッシュ感」があったのだと思います。一時間位話す内に、自分で解決する糸口を見つけた後の言葉でした。私にはとても嬉しかった言葉で、励みになりました。

知識を身につけること

たとえば、虐待について、体を傷つける身体的虐待は分かっている、無視する、言葉で傷つける、食事を十分に与えない、清潔にしない等の保護者の行為が、虐待だという事はあまり知られていないのではないのでしょうか？

私たちが主催する講座では、様々な事を学んだり、子育て情報を提供する事を重要視しています。楽しく、面白い事業に参加するのと同じくらい、知識を得る事業にも参加してほしいと思っています。

6月に開催した「心が楽になる整理収納」の講座で



救急対応講座

は、「なんのための収納？すべては毎日を笑顔で過ごすため」のお話から始まり、「ひとめでわかるラベリング」まで、29人が共に学びました。

先ほどの「虐待」についても、その知識があれば、自分自身の気づきや周りへの配慮も変わり、「虐待防止」にもつながると思います。また、学ぶ内容によっては、悩んでいた事が「なあんだ、誰でも同じで当たり前なのか。」と思えてスッキリする事もあります。

小学校中学年の子どもを持つ保護者から「とても反抗的で参っています。」と話があった時に、「そのくらいの年頃の子は、第二反抗期なんだから、それが当たり前よ。」と応じただけで、保護者の気持ちがふっと軽くなったようです。それを知らなかったら、ずっと育児に問題があるのかと悩み続けたかもしれません。私たちは、保護者が知識を増やすお手伝いをしたいと思っています。



講座「気持ちをつなぎ合う言葉」

額縁を変えてしてみる

「うちの子は何をやるにも遅いので、早くしろ早くしろと言ってばかりいる」と悩んでいる保護者がいました。「額縁を変えて子どもさんを見てみたら？」とアドバイスしました。額縁を変えると、違う角度で見るという事です。遅いということは細かい事にはこだわらない、おおらかだという事。また丁寧でもある事。そういうような見方をすると、親子のコミュニケーションも違ってくるのではないのでしょうか？額縁を変えると、短所が長所にもなるという事です。子育てに役立ててほしいと思います。

みんなが子育ての当事者になる

自分の子が「〇〇君、あいさつしてくれたよ。」と地域の人にほめられたら、「うちでは言うことを聞かないけど、あいさつはちゃんとしてるんだ」と、保護者は嬉しくなります。子育てにも自信がわきます。このように、保護者は自分が見た範囲でしか子どもを知りませんから、このままでいいのだろうか悩んでいる時に、地域の人のおたった一言で救われる時もありますし、また子どもにとっても、地域の人に可愛がられる事はとてもいい事です。子どもが健やかに育つように、みんなが子育ての当事者になる事が大切だと思います。